



## LCC News Letter 24

同志社校友会大阪支部産官学部会LCC

2 March 2012 (同志社HPより転写)

### 講師 内藤正典教授 プロフィール

1956 年生まれ

1979 年 東京大学教養学部教養学科・科学史・科学哲学分  
科卒業 (教養学士)

1981 年 東京大学大学院理学系研究科地理学専門課程 (修  
士課程) 修了 (理学修士)

1981 年～83 年 シリア、ダマスカス大学文学部地理学科に  
留学しダマスカス・オアシスでの沙漠化の研究に従事

1982 年 東京大学大学院理学系研究科地理学専門課程 (博  
士課程) 中退

東京大学教養学部人文地理学講座助手に採用

1986 年 一橋大学社会学部社会地理学講座専任講師へ

1989 年 同助教授

1990～92 年 トルコのアンカラ大学政治学部に客員研究

1997 年 同大学院社会学研究科地球社会研究講座教授に昇  
任、同年、一橋大学より博士 (社会学) の学位取得

2010 年 同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究  
科教授に就任

現在、日本学術会議連携会員 (地域研究)、UNESCO 人文・  
社会科学セクター「社会変容のマネジメント」プログラムの  
科学諮問委員 (アジア・太平洋地域選出)

**研究分野** 現代イスラーム地域研究、ヨーロッパにおける  
移民問題、西欧によるイスラーム誤認の問題、EU とトルコ  
との関係、トルコにおける世俗主義の変容などが現在の関  
心。地域としては、今はトルコおよびトルコ系移民の暮ら  
すヨーロッパ各国をフィールドにしている。あまり専門と  
は言いたくないがイスラームとテロの問題も注視している。  
使える外国語は、トルコ語と英語、ドイツ語、フランス  
語、アラビア語。



グローバル・スタディーズ  
研究科長 内藤正典教授

### 学生へのメッセージ

理系で大学に入り、3年  
生に進級するとき、生化学  
に進むか、文系との境界領  
域に進むか、散々迷った末、  
リベラル・アーツとして幅  
広い勉強を続けるため主  
専攻を科学史・科学哲学、  
副専攻を藝術にして教養  
学科に進学。日本の近世農  
業技術史と自然観の研究  
で卒論を書く。

その後、乾燥地域での自  
然と人間との関わりを研  
究しようと地理学の大学  
院に進むも、得るものはな  
く、博士課程進学と同時に  
日本を出る。シリアのダマ  
スカス大学に留学。

三千年以上にわたるオ  
アシスの灌漑農業が、なぜ、  
独立国家となった第二次  
大戦後に急速に衰退して  
いったのかを、百以上の村

を訪ねて伝統的水利慣行の変遷を調べながら解明しようとした。

この頃、書いた論文がもとで政治的な理由から、シリアに入国することが困難となり、その後、フィールドをトルコに移した。トルコでは政治と宗教の關係に焦点を当てて、イスラーム復興現象と世俗主義の相克を考えてきたが、同時に、ヨーロッパ諸国へのトルコ出身の移民たちが日常生活のなかで直面する外国人排斥や反イスラーム感情の問題をベルリン、ケルン、アムステルダム、パリ、ストックホルムなどで調査・研究していった。ムスリムの眼からみたヨーロッパとはなんであったのか？

2001年9・11のテロが発生すると、西欧社会とムスリム社会との摩擦の現場を見てきた経験から、イスラームとテロの問題を西欧世界の側がひどく誤認していることに気づき、もっぱら、西欧によるイスラームとムスリムへの誤認に焦点を当てた著作に取り組んできた。

24年勤務した一橋大学では、学部のゼミではほぼ毎年ヨーロッパやトルコにフィールド・ワークに行き、成果を書物や映像のかたちで公表してきた。

学生の力というのは無限である。初歩的な知識しかなくても、必要だと自覚すれば学生は自ら学んでいく。それを引き出して、研究成果につなげていくのが教員の仕事。「こんなこと学生にできるはずはない」と言う前に、「やってみたら？」の一言が学生を伸ばすと信じている。

グローバル・スタディーズ研究科では、基本となる知識の蓄積をおろそかにせず、そのうえで、さまざまな知的な実践へと進んでいきたい。京都の地で、世界とつながっていることを実感しながら、地球規模の課題群に取り組んでいく。同志社の歴史と精神は、学生を型にはめるのではなく、リベラルな学風で能力を伸ばすところに特色がある。それを活かして、京都でなければできない

国際主義を実践していこうと思う。

今年のプロジェクでは、まず、アフガニスタン復興支援同志社グローバル・スタディーズ・プログラムを策定して、アフガニスタン再建のために貢献してくれる若い人材を同志社に迎えたい。もう一つ。2010年は『トルコにおける日本年』。

同志社大学では、グローバル・スタディーズ研究科と一神教学際研究センターとが合同で、トルコのフアーティヒ大学とシンポジウムを開く。これまでの学術交流とは違って、世界共通の課題に二つの国からアプローチをしようという意欲的な取り組みである。そして、これを期に、京都市とイスタンブール市がパートナーシティ協定を締結する予定。

ともに千数百年の都にして文化首都。京都はシルクロードの東の終着点、イスタンブールは西の終着点。絹の道が結ぶ二つの豊かな文明の遺産から、新しい知の世界を開拓していくのが私の夢。（以上）